

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02124

研究課題名（和文）若者ケアラーの成人への移行と支援に関する研究

研究課題名（英文）Support for young carers in transition to adulthood

研究代表者

森田 久美子（MORITA, Kumiko）

立正大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：40308127

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：子ども・若者支援機関の若者ケアラー等の概念の認識率は高くないものの、その半数が、支援している子ども・若者の中に家族のケアをしていると思われる若者がいると認識しており、若者ケアラーを子ども・若者支援機関の支援対象と位置づけ、若者ケアラーの成人への移行を支援する体制を整備することが重要であると考えられる。また、子ども・若者支援機関の多くが、ケアをすることの若者への影響として、「精神的ストレス・不安定」または「就職できない」ことを認識し、若者ケアラーへの支援として、カウンセリングや居場所の提供などの提供による精神的なサポートや、就活についての知識ややり方の指導などを含む就労支援を行っていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2024（令和6）年6月に、子ども若者育成支援推進法が改正され、ヤングケアラーが子ども・若者支援の対象に位置づけられた。ヤングケアラー支援については、2022（令和4）年から国による支援施策が講じられてきたが、18歳を超えてケアを続ける若者や18歳以降にケアを始めた若者への支援については、途切れなく支援をすることの必要性や子ども・若者支援センターを相談機関に位置づけることが確認されているものの、具体的な施策は明らかとなっていない。本研究は、若者ケアラーへの支援施策のあり方に示唆を与えるものである。

研究成果の概要（英文）：Half of the child and youth support organizations recognized that among the children and young people they support, there are young people who seem to be caring for their families. It is considered important to position young carers as targets of support from child and youth support organizations and promote efforts to support the transition to adulthood of young carers at child and youth support organizations. In addition, many child and youth support organizations recognized that the impact of caring for young carers was "mental stress and instability" and "inability to find employment. Then they provided support for young carers by providing mental support through counseling and a place to stay, as well as employment support such as knowledge about and guidance on how to find a job.

研究分野：社会福祉

キーワード：ヤングケアラー 若者ケアラー 成人への移行

1. 研究開始当初の背景

若者ケアラーについて、日本では、「平成24年就業構造基本調査」が29歳未満の介護者数を17万8千人(同年齢階級の1.0%)と推計しているのみで、若者ケアラーのケアの実態を把握している政府統計は存在していなかった。教育や雇用、職業訓練、無業の状態にある者を含めた若者ケアラーのケアの実態を把握し、若者ケアラーのニーズに対応した支援体制の構築につなげることが課題となっていた。

また、「子ども・若者育成支援推進大綱」は「困難を有する子ども・若者」の抱える困難として、虐待や不登校、ひきこもり、無業等を挙げていたが、同大綱では、若者ケアラーのニーズに対応した「困難を有する子ども・若者」の支援のあり方は検討されておらず、「困難を有する子ども・若者」の支援にあたる子ども・若者支援機関(以下、若者支援機関)における若者ケアラーの支援状況もわかっていない。若者支援機関における若者ケアラーへの支援状況と支援技術を明らかにし、若者支援機関における若者ケアラーのニーズに対応した支援体制の整備につなげていくことが課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、若者ケアラーのニーズに対応し、若者ケアラーの健康保持と豊かな成人への移行機会の確保に資する支援体制の構築を促進することである。日本ではほとんど明らかとなっていない雇用や職業訓練、無業の状態にある若者ケアラーのケアの実態と若者ケアラーの支援技術を体系的に把握するとともに、調査を通して、若者支援機関の支援職員の若者ケアラーへの理解を促進し、若者支援機関での支援体制の整備に取り組む動きへとつなげていく。

本研究では、若者支援機関の支援職員の若者ケアラーについての認識を把握することを通して、若者支援機関を利用する若者ケアラーのケアの実態(属性、ケアの状況、ケアをすることによる影響)及び若者支援機関における若者ケアラーへの支援状況(支援の経験の有無、ニーズへの対応とその困難)、若者ケアラーの支援及び支援体制の構築の促進に向け若者支援機関の支援職員が用いている支援技術を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の2つの方法によって研究に取り組んだ。

(1) 若者支援機関を利用する若者ケアラーについての量的調査

- 1) 調査目的: 若者支援機関における若者ケアラーの支援状況及び若者ケアラーのケアの実態、若者ケアラーへの支援状況を明らかにする
- 2) 調査方法: 自記式質問紙調査(郵送法)
- 3) 調査対象: 若者支援機関(「全国特定非営利活動法人情報の検索」に登録されており、定款に「ひきこもり」「不登校」「高校中退」「若年無業者」「ニート」「フリーター」のいずれかの単語が含まれている特定非営利活動法人及び子ども・若者総合相談センター)
- 4) 調査期間: 2019年3月~2019年5月
- 5) 回収状況: 若者支援機関の管理者からの回答87票(回収率14.2%)
若者支援機関の支援者が支援している若者についての回答有効回答123票

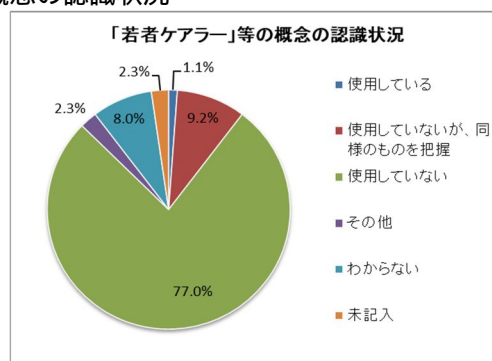
(2) 若者支援機関における若者ケアラーの支援についての質的調査

- 1) 調査目的: 若者ケアラーのニーズに対応した支援及び支援体制、それらを発展させるために用いられる支援技術を、より深く把握する
- 2) 調査方法: 事例研究(multiple-case-study)
- 3) 調査対象: 若者支援機関及びケアラー支援機関の支援職員4カ所
- 4) 調査期間: 2020年1月~2024年3月

4. 研究成果

(1) 若者支援機関における「若者ケアラー」等の概念の認識状況

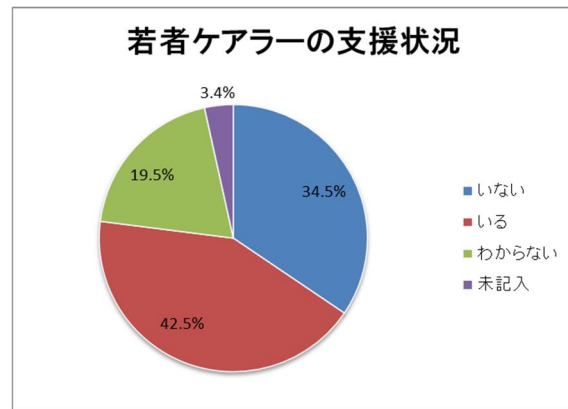
若者支援機関の管理者に、若者支援機関では「若者ケアラー」や「ケアを担う若者」の用語を使用し若者の状況を把握しているかを尋ねたところ、「使用している」と回答したのは1.1%、「使用していないが、同様のものを把握している」と回答したのは9.2%となっていた。この結果から、「若者ケアラー」等の概念を把握し、若者ケアラーの支援に取り組んでいる若者支援機関は全体の1割程度であると推定される。この結果は、若者支援機関における若者ケアラーについての支援対象としての認識状況は高くなく、若者ケアラーを若者支援機関の支援対象



として位置づけ、その概念と支援のあり方を啓発していくことの必要性を示唆していると考えられる。

(2) 若者支援機関における若者ケアラーの支援の状況

若者支援機関の管理者に、支援している若者の中に、家族の世話をしていると思われる若者がいるかを尋ねたところ、「いる」と回答したのは42.5%となっていた。この結果から、若者支援機関の半数が若者ケアラーを把握し、支援していると考えられる。この結果は、若者支援機関が支援している若者が直面している不登校やひきこもり、ニートなどの困難に、家族の介護や世話が関連している場合があること、また若者支援機関は家族の介護や世話を含む複合的な課題を有する若者の支援に取組み、その支援のノウハウを蓄積しつつあることを意味していると考えられる。



(3) 若者ケアラーの性別

若者ケアラーを支援している支援者に、支援している若者ケアラーの性別について尋ねたところ、「男性」の割合が54.5%、「女性」の割合が43.9%となっていた。

また、支援者が支援している若者ケアラーの性別を若者の年齢階級(2区分)別に見たところ、「15~24歳」では「女性」の割合が、「25~39歳」では「男性」の割合が高くなっていった(それぞれ、60.0%、64.4%)($p<0.05$)。この結果から、若者支援機関で支援を受けている若者ケアラーは、「15~24歳」で女性が、「25~39歳」で男性が多い傾向にあると推測される。この結果は、稼得役割をより強く期待されるようになる25歳以上の男性の若者ケアラーにおいて、支援ニーズが顕在化して、若者支援機関を訪れるものが増えてきていること、25歳以上の女性の若者ケアラーでは、男性に比べ、支援ニーズが顕在化しにくい状況がある可能性があることを示唆していると考えられる。このことは、25歳以上の女性の若者ケアラーについては、より支援ニーズが顕在化しにくいことを踏まえた支援、施策が必要であることを意味していると考えられる。

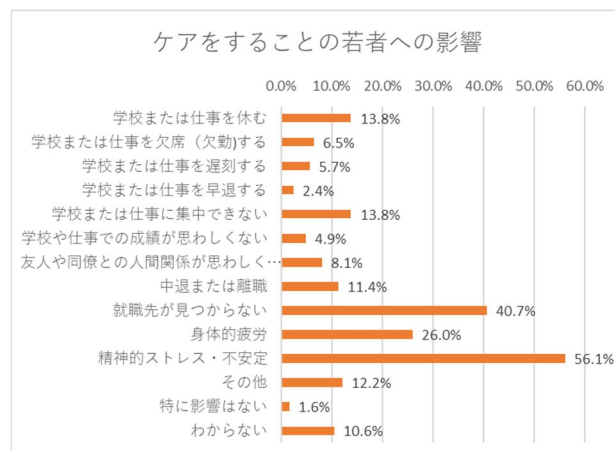
(4) 若者ケアラーの介護への従事状況

若者ケアラーを支援している支援者に、支援している若者ケアラーが主たる介護者であるか否かについて尋ねたところ、「主たる介護者である」との回答割合は37.4%、「主たる介護者でない」の回答割合は36.6%となっていた。

また、支援している若者ケアラーが主たる介護者であるか否かを年齢階級(5区分)別にみたところ、「30~34歳」及び「35~39歳」で「主たる介護者である」の割合が高くなっていった(それぞれ61.1%、69.2%)($p<0.05$)。この結果は、主たる介護者となっている若者ケアラーは年齢があがるにつれて多くなる傾向にあること、若者ケアラーの支援では、若者が主たるケアラーとして家族の世話を中心的に担い、家族の世話から抜けづらい状況にあることを踏まえて、若者ケアラーのケア状況を把握し、ケアの負担を軽減するための支援をすることが必要であること、その必要性は30歳以上の若者ケアラーで特に高いことを意味していると考えられる。

(5) ケアをすることの若者への影響

若者ケアラーを支援している支援者に、ケアをすることの若者への影響について尋ねたところ、「精神的ストレス・不安定」の回答割合が最も高く56.1%、次いで「就職先が見つからない」(40.7%)、「身体的疲労」(26.0%)となっていた。この結果から、ケアをすることの影響として、若者ケアラーの6割が精神的健康状態の悪化を、4割が就労先が見つからないことによる就労の困難を、2割が身体的健康の悪化を経験していると推測される。この結果は、若者ケアラーが心身の健康の回復や維持についてのニーズを有しており、特に、精神的健康への支援ニーズが高いこと、家族の世話や介護と就労とのバランスを図っていくことを含めた、就職活動の指導やガイダンス



や就労支援を必要としていることを意味していると考えられる。

(6) 若者支援機関における若者ケアラーの支援

若者ケアラーを支援している支援者に、若者ケアラーの支援に有効と思われる支援について自由記述で尋ねたところ、「アウトリーチ」による本人との関係樹立や、「安心できる居場所の提供」によるレスパイトやストレスの軽減、「心理的カウンセリング」によるストレスの軽減と心理面の整理、家族間のコミュニケーションを促進し、家族間のケア負担を調整する「家族支援」、福祉サービスの利用など関係機関と連携して支援する「多機関連携による支援」、職場見学や職業体験を利用した「働く自信の回復への支援」などが多く挙げられた。

(7) 若者ケアラーの支援についての質的調査

若者支援機関及びケアラー支援機関では、支援ニーズが顕在化しにくい子ども・若者ケアラーが支援機関につながることを促進するために、関係機関と連携したニーズキャッチの取組みをしていた。具体的には、子ども・若者ケアラーの家庭が各種手当を申請する可能性が高い関係機関の部署を通じて、支援機関が提供するサービスについてチラシを配布し、子ども・若者ケアラーに支援の情報を届け、フードバンクなどの家庭への直接支援の申請があったことを契機に、家庭や子ども・若者への支援の必要性を把握し、必要な支援を提供する、必要な支援につなぐ取組みをしていた。この結果から、主たる介護者である若者ケアラーや25歳以上の女性のケアラーは、支援ニーズが顕在化しづらいと思われることから、地域包括支援センターや子育て支援部署など、彼らが接触を持ちやすいと思われる関係機関と連携し、若者ケアラーのことや、若者支援機関等の支援についての情報を伝え、若者ケアラーの支援機関へのアクセスを促進することが重要であると考えられる。

また、若者ケアラーの就労支援については、就労していない期間が長期化した若者が、外出することや働くことに不安を強く感じ、一步を踏み出せない状況にあることを踏まえて、同じ境遇にある仲間と悩みを共有できる場を持てるようにする支援や、外出することや人と共に活動すること、仕事をする事への自信を回復することへの支援を行っていた。その上で、若者本人の意向を尊重しつつ、主たる介護者として家族の世話を担いながらも働く機会を得られるよう、職場体験やガイダンス等の就職支援が行われていた。この結果から、若者ケアラーの就職支援については、ピアサポートや居場所支援等を通じて、働くことへの自信の回復に向けた支援を行っていくことが効果的であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 11
2. 論文標題 ケイパビリティ アプローチからみたヤングケアラーの問題とアプローチ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 子ども学	6. 最初と最後の頁 188-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 816
2. 論文標題 ヤングケアラーを支援する体制づくり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育と医療	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 SPECIALISSUE 2023
2. 論文標題 表面化しづらいヤングケアラーへの支援（特集 若者たちの生きづらさ 不確実なこの社会でいかに伴奏する）か	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 こころの科学 SPECIALISSUE 2023	6. 最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 78(4)
2. 論文標題 保健師に期待されるヤングケアラー支援への関わり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 269-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 学校におけるヤングケアラーへの支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本健康相談活動学会誌	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 141
2. 論文標題 ヤングケアラーが求める支援と実際の支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 10-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 178
2. 論文標題 精神医療に期待されるヤングケアラーへの対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医療	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 56(4)
2. 論文標題 ヤングケアラーと作業療法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 338-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 第51巻第4号
2. 論文標題 ヤングケアラーの視点から考える子ども虐待にならないための支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神保健福祉	6. 最初と最後の頁 328-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 22
2. 論文標題 高等教育で学ぶ若者ケアラーのケアと学生生活との両立プロセス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コミュニティソーシャルワーク	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田久美子	4. 巻 117
2. 論文標題 これからの家族支援とは：ケアラー支援の視点から再考する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神保健福祉	6. 最初と最後の頁 130-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森田久美子
2. 発表標題 ヤングケアラーのケアの現状とケアマネジメントに求められる対応
3. 学会等名 日本ケアマネジメント学会第21回研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 森田久美子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 405
3. 書名 生活困窮者自立支援法自立相談支援事業従事者養成研修テキスト第2版	

1. 著者名 堀越栄子・森田久美子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 64
3. 書名 ヤングケアラーを支える	

1. 著者名 加藤雅江・森田久美子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益社団法人日本精神保健福祉士協会	5. 総ページ数 50
3. 書名 子ども虐待に気づくためのソーシャルワークハンドブック	

1. 著者名 岡田まり・森田久美子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 ソーシャルワーク演習【共通科目】	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------